

平成 21 年 8 月 3 日

各 位

株 式 会 社 フ ィ ス コ
 代 表 取 締 役 三 木 茂
 (コード番号：3807 大証ヘラクレス)
 問 い 合 せ 先：
 取 締 役 管 理 本 部 長 上 中 淳 行
 電 話 番 号 03 (5212) 8790 (代表)

平成 21 年 12 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 及 び 通 期 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 21 年 2 月 13 日の決算短信にて公表いたしました平成 21 年 12 月 期 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日) の第 2 四半期累計期間及び通期業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 第 2 四半期累計期間 業績予想の修正 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

連結業績予想の修正

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	589	7	0	△0	△4 円 18 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	537	0	△6	△16	△504 円 84 銭
増 減 額 (B-A)	△52	△7	△7	△16	-
増 減 率 (%)	△8.8	△99.4	-	-	-
<ご参考>前年同期実績 (平成 20 年 12 月 期 中 間 期)	651	△120	△150	△368	△11,148 円 42 銭

個別業績予想の修正

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	402	16	18	17	518 円 98 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	378	3	4	△8	△264 円 63 銭
増 減 額 (B-A)	△23	△12	△14	△25	-
増 減 率 (%)	△5.9	△80.5	△77.8	-	-
<ご参考>前年同期実績 (平成 20 年 12 月 期 中 間 期)	479	△12	△13	△305	△9,244 円 32 銭

2. 通期業績予想の修正（平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）

連結業績予想の修正

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,209	53	50	32	997円42銭
今回修正予想(B)	1,052	9	6	△4	△134円31銭
増減額(B-A)	△157	△44	△43	△37	-
増減率(%)	△13.0	△83.1	△86.3	-	-
<ご参考>前年同期実績 (平成20年12月期)	1,244	△147	△236	△613	△18,567円97銭

個別業績予想の修正

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	821	46	51	37	1,137円47銭
今回修正予想(B)	748	△4	△0	△15	△476円86銭
増減額(B-A)	△72	△50	△52	△53	-
増減率(%)	△8.8	-	-	-	-
<ご参考>前年同期実績 (平成20年12月期)	940	△32	△36	△697	△21,119円42銭

3. 第2四半期累計期間 業績予想修正の理由

(1) 連結

売上高につきましては、当社における主力サービスの法人向けリアルタイムサービスが、昨年秋以降の金融危機の影響により、金融機関を中心とする提供先からの解約が想定以上に発生したことが主因であります。

また、金融関連に特化した教育事業を展開するシグマベイスキャピタル株式会社（以下、シグマ社）において、一定の売上拡大を計画しておりましたが、コスト削減を進める国内金融法人及び外資系投資銀行からの教育講座の受注が減少したことが主因であります。

この結果、連結売上高は前回予想を52百万円下回る537百万円となる見通しであります。

利益面につきましては、売上が当初計画に比して低迷していることから、グループを挙げて販管費を中心とした経費抑制に取り組みましたが、売上低迷の影響から、営業利益及び経常利益はいずれも予想を下回る見通しです。

当期純利益につきましては、第1四半期連結会計期間において当社グループが保有する投資有価証券の売却損及び評価損14百万円を特別損失として計上したことにより、16百万円の当期純損失となる見通しです。

(2) 個別

売上高につきましては、上記「(1) 連結」で記載いたしましたとおり、法人向けリアルタイムサービスの低迷が主因であります。

当社の売上高は前回予想を 23 百万円下回る 378 百万円となる見通しであります。

営業利益、経常利益につきましては、手元資金の維持・確保を最優先課題に掲げ、投資効果を見極めた設備投資を実施したことから減価償却費を中心に販管費が有利に推移しておりますが、売上減少分をカバーするまでには至らず、前回予想を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、連結子会社シグマ社の債務超過額増加に対する投資損失引当金の繰入を特別損失として 11 百万円計上することにより、8 百万円の当期純損失となる見通しです。

4. 通期業績予想修正の理由

(1) 連結

通期売上高につきましては、景気回復期待や過度な信用不安の後退を底流に株式市場では底入れの兆しが出始め、当社の法人向けリアルタイムサービスの解約は一巡したものと見ております。しかしながら、国内外の金融機関におけるコスト削減は下期においても継続する懸念から、特にシグマ社における教育事業は引き続き厳しいものと考えられます。

第 2 四半期連結累計期間の業績予想に加え、当該変動要因を加味した結果、通期連結売上高は前回予想を 157 百万円下回る 1,052 百万円となる見通しであります。

営業利益、経常利益につきましては、上記売上減少に伴う影響を考慮した結果、営業利益 9 百万円、経常利益 6 百万円となる見通しです。

当期純利益につきましては、当第 2 四半期連結累計期間において計上される特別損失の発生により、4 百万円の当期純損失となる見通しです。

(2) 個別

通期売上高につきましては、上記第 2 四半期累計期間の業績予想を勘案した結果、当初計画には及ばず、前回予想を 72 百万円下回る 748 百万円となる見通しであります。

営業利益、経常利益につきましては、売上が当初計画を下回ることから、引き続き徹底したコスト削減に努めてまいりますが、売上減少に伴う利益減少の影響から、営業損失 4 百万円、経常損失 0 百万円となる見通しです。

当期純利益につきましては、上記第 2 四半期累計期間の業績予想に記載しました投資損失引当金の繰入を通期においては 17 百万円見込んでいることにより、15 百万円の当期純損失となる見通しです。

以上

(注) 上記業績予想は、発表日現在における入手可能な情報に基づいて作成しておりますが、多分に不確実な要因を含んでおり、実際の業績は今後の様々な要因によって業績予想と異なる結果になる可能性があることを予めご承知おきください。